

たまねぎレポート【第413号】



令和4年3月26日

阪南青果株式会社

社内報

2月の天候は、東・西日本の気温は低く、東・西日本の日本海側の降雪量は多かった。西日本の降水量はかなり少なく、東日本の太平洋側と西日本の日照時間は多かった。沖縄・奄美の降水量はかなり多く、日照時間は少なかった。3月の気温は平年なみ亦は低めで、降水量は西日本では、平年に比べ少なく、桜の開花はやや早い。

気象庁の4～6月の3か月予報では、平均気温は、北・東日本で高い確率50%、西日本で平年並みまたは高い確率40%。月別予報は次の通り。

4月、北・東日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。北・東日本の太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ曇りや雨の日がすくない。

5月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

6月、北日本と東日本の日本海側では、期間の前半は天気は数日の周期で変わる。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側、西日本、沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

野菜の概況

建値市場の2月の野菜の販売量は、191,477トン前年比92%(前月比96%)、平均単価はkg¥249前年比115%(前月比106%)。市場別には多少のバラツキがあるものの、総じては入荷減の単価高となっている。市場別の販売量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比91%、平均単価はkg¥231前年比122%。東京市場の販売量は前年比92%、平均単価はkg¥264前年比114%。名古屋市場の販売量は前年比92%、平均単価はkg¥246前年比116%。大阪本場の販売量は前年比90%、平均単価はkg¥251前年比118%。福岡市場の販売量は前年比98%、平均単価はkg¥177前年比113%となっている。

建値市場の2月の玉葱の販売量は21,613トンで前年比84%、(前月比107%)、平均単価はkg¥190前年比205%(前月比108%)。市場別には多少のバラツキはあるものの総じては、入荷減の単価高となっている。市場別では、札幌市場の販売量は2,959トン前年比93%、平均単価はkg¥155前年比254%。東京市場の販売量は8,470トン前年比85%、平均単価はkg¥208前年比198%。名古屋市場の販売量は5,280トン前年比86%、平均単価はkg¥170前年比191%。大阪本場の販売量は2,874トン前年比65%、

平均単価はkg ¥ 208前年比226%。福岡市場の販売量は2,030トン前年比105%、平均単価はkg ¥ 194前年比211%となっている。福岡市場だけが前年比で入荷増の価格高となっている。

日本農業新聞社の調べでは、主要7地区代表卸7社の2月の主要野菜14品目の販売量と単価は、販売量が86,513トン前年比10%減、平年(過去5年平均値)比6%減。平均単価はkg ¥ 160前年比20%高、平年比8%高となっている。5カ月ぶりに平年を上回った。年明けからの冷え込みや少雨で生育が遅れ、2月の出回り量が減少し、入荷減の単価高となった。販売量が前年比増の品目は、ネギが前年比12%増、ニンジンが9%増の2品目だけ。販売量が前年比減の品目はホウレンソウ・レタスの前年比22%減を始め、キャベツが18%減、トマトが17%減、タマネギが12%減など12品目。前年比高となった品目はタマネギがkg ¥ 167で前年比111%高、レタスがkg ¥ 216で59%高、キャベツがkg ¥ 85で44%高、ハクサイがkg ¥ 50で35%高など10品目。前年比安の品目は、ニンジンがkg ¥ 78で前年比38%安、ネギがkg ¥ 299で33%安、サトイモがkg ¥ 256で14%安など4品目となっている。

東京都中央卸売市場の2月の野菜の入荷量は、105,334トン前年比92%(前月比94%)。平均単価はkg ¥ 264前年比114%(前月比107%)で前年比、前月比とも入荷減の価格高となっている。主要15品目で入荷が前年比増の品目は、ネギが前年比114%、サトイモが110%、ニンジンが105%など4品目。入荷が前年比減の品目は、レタスが前年比78%、トマトが84%、ナス・キュウリが87%、たまねぎが85%、など11品目。価格が前年比高の品目は、タマネギがkg ¥ 208で前年比198%、レタスがkg ¥ 291で168%、ハクサイがkg ¥ 51で165%、キャベツがkg ¥ 101で160%など11品目。前年比安の品目はネギがkg ¥ 299で前年比61%、ニンジンがkg ¥ 94で62%、サト

イモがkg¥287で80%など4品目となっている。

東京都中央卸売市場の2月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	105,344	91.9	94.4	264	113.7	106.9
た ま ね ぎ	8,470	84.8	106.2	208	197.7	109.5
キ ャ ベ ツ	15,019	89.4	100.1	101	159.5	127.9
は く さ い	12,531	99.2	90.1	51	164.9	130.8
だ い こ ん	8,746	90.7	84.8	107	132.5	139.0
に ん じ ん	5,951	104.8	90.7	94	62.0	94.0
ば れ い し ょ	6,341	100.7	100.6	252	106.9	104.6
レ タ ス	5,439	78.3	90.9	291	168.2	106.2
ト マ ト	4,598	84.4	88.2	368	117.6	108.6
ね ぎ	4,013	114.2	79.2	299	60.7	116.8
か ぼ ち ゃ	1,895	100.7	107.7	185	112.5	98.9
な が い も	757	89.3	118.3	270	91.1	98.2
れ ん こ ん	578	64.6	91.8	654	176.6	121.8
に ん に く	219	121.0	114.1	1,075	76.9	99.9

玉葱の概況

需要(市場)の動き

東京市場

東京都中央卸売市場の2月の玉葱の入荷量は8,470トン前年比85%(前月比106%)。主力の北海物の入荷は6,377トン前年比84%、占有率は7

5%前年比2ポイントダウン。静岡物は予想を大幅に下回り、1,386トン前年比69%、占有率は16%前年比4ポイントダウン。中国物は443トン前年比345%、占有率は5%前年比4ポイントアップ。長崎物は121トン前年比131%。総平均単価はkg¥208前年比198%(前月比110%)。産地別では、北海物はkg¥196前年比239%。静岡物はkg¥280前年比153%。中国物はkg¥114前年比97%。長崎物はkg¥305前年比173%となっている。

3月に入ってから、北海物の入荷は日毎に減少し、生育が回復すると予想された静岡物も前年並みの入荷となり、続く長崎・愛知・佐賀も、生育遅れで少量の入荷に留まり、玉葱の品不足が予想外に進行した。此処に来て新物の入荷はやや増加しているものの、静岡物は終盤となり、続く長崎・佐賀も期待外れで、北海物主力の販売となっている。既に、春商材の新物の引き合いが強まっているものの入荷が少なく対応に苦慮している。

3月1日～19日の入荷量は5,853トン前年比83%、平均単価はkg¥229前年比221%。静岡物と中国物の入荷は前年比増となったが、北海物と長崎・佐賀は大幅減となっている。産地別では、北海物の入荷は3,995トン前年比76%、平均単価はkg¥216前年比260%。静岡物は961トン前年比102%、平均単価はkg¥291前年比171%。中国物は327トン前年比334%、平均単価はkg¥118前年比97%。長崎物は229トン前年比57%、平均単価はkg¥289前年比196%。佐賀物は198トン前年比48%、平均単価はkg¥294前年比189%となっている。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の2月の玉葱販売量は5,280トン前年比86%(前月比109%)で前年比減、前月比増となっている。主力は北海物で、販売量は4,533トン前年比84%、占有率は86%前年比1ポイントダウン。静岡物は6

10トン前年比87%、占有率は12%前年比1ポイントアップ。中国物は71トン前年比233%。愛知物は58トン前年比123%。総平均単価はkg¥170前年比191%(前月比103%)。産地別の平均単価は、北海物はkg¥152前年比200%。静岡物はkg¥292前年比156%中国物はkg¥114前年比118%。愛知物はkg¥284前年比171%となっている。

3月に入って、静岡物は終盤期に入り、入荷は日々減少傾向になり、愛知物は少量入荷が始まっているものの、連続出荷は3月末になる予想で、北海物主力の販売が続き、品不足が常態化した。品不足をカバーするために、転送屋の北海物を手当てしたが、量的に集まらず、価格高と品質不良品に悩まされた。此処に来て、愛知物は碧南地区の出荷が始まり、多少の入荷増となってきたが、反面、静岡物が終了間際となっている。現在も、北海物主力の販売だが、直送品は、JA北みらい、岩見沢、美幌で30トン程度よりなく、転送物を買付けて凌いでいるが、品質が不揃いで価格差が拡大している。仲卸の間では、玉葱市況の異常高で、価格に拘わらず品物を必要とする店舗と、取扱いを中断している店舗に分かれて来ている。

大阪本場

大阪市中心卸売市場本場の2月の玉葱の販売量は、2,874トン前年比65%(前月比110%)で前年比減、前月比増であった。前月に続き主力の北海物の入荷が前年比半減し、兵庫物が増加したものの、増量が期待された静岡の新物は前年比大幅減で、玉葱の品不足は深刻化した。産地別の販売量は、北海物が2,071トン前年比57%、占有率72%前年比11ポイントダウン。兵庫物は378トン前年比157%、占有率13%前年比8ポイントアップ。静岡物は265トン前年比66%、占有率9%で前年比と同じ。。長崎物は121トン前年比115%、占有率4%前年比2ポイントアップ。総平均単価はkg¥208前年比2

26%(前月比105%)。産地別の平均単価は、北海物がkg¥184前年比249%。兵庫物はkg¥248前年比149%。静岡物はkg¥298前年比156%。長崎物はkg¥304前年比169%となっている。特に、北海物は近年にない品不足で卸は仲卸に割り当て販売を余儀なくされている。

3月に入ってから、府県の新物の入荷が少なく、北海物主力の販売で、中旬までの占有率は北海物60%、長崎物17%、兵庫物8%、静岡物6%となっている。現在は新物で75~78%を占め、北海物は10~15%になったが、品不足が常態化し、新物の価格が値上がり傾向、北海物は横這いの相場展開となっているが、品不足が深刻の度合いを深めている。新物の入荷は6産地を数え、多産地少量入荷が続いている。此の先も北海物は先細りに、長崎、佐賀、兵庫物も急増が見込めず、過去に例を見ない玉葱飢饉となる可能性がある。

3月1日~19日の販売量は1,812トン前年比55%、平均単価はkg¥226前年比243%。産地別では、北海物は1,096トン前年比47%、平均単価はkg¥199前年比269%。兵庫物は149トン前年比79%、平均単価はkg¥275前年比202%。静岡物は101トン前年比89%、平均単価はkg¥291前年比172%。長崎物は311トン前年比53%、平均単価はkg¥289前年比211%となっている。春先の冷え込みと、干ばつで新物の生育が遅れ、球流れは小振りである。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の2月の玉葱販売量は、2,030トン前年比103%(前月比106%)で、前年比増、前月比とも増となっている。集荷に奮励努力した結果である。北海物が主力で、北海物の販売量は1,375トン前年比84%、占有率68%で前年比17ポイントダウン。中国物は324トン前年比393%、占有率16%前年比12ポイントアップ。長崎物は245トン前年比149%、占有率12%

で前年比3ポイントアップ。総平均単価はkg ¥194前年比211% (前月比108%)で前年比、前月比高となっている。産地別の平均単価は、北海物はkg ¥196前年比236%。中国物はkg ¥101前年比98%。長崎物はkg ¥284前年比167%。となっている。

3月に入って、長崎・佐賀物の入荷が始まり、L・10kg ¥2,500まで値下げ販売となったが、産地から関西市場が高いと叱咤され、再度、¥3,000~2,800の値上げ販売となった。昨今は、長崎物に加え佐賀物が入荷しているが、産地が強気で仕切値が高く、事前契約販売分は採算割れになっている。北海物の入荷も少なく、販売を控えているが不足分は、高値の転送品を調達しているが、採算割れの物も発生し、厳しい販売環境が続いている。新物は長崎の島原地区が終盤を迎え、順次、佐賀物に移行するが、産地からは長崎以上の高値を要求されてやり辛いが、当面は産地主導の態勢なので産地に追随止む無しと思っている。

3月1日~19日の玉葱の販売量は1,480トン前年比86%、平均単価はkg ¥223前年比234%。入荷は前年比2桁減、単価は前年比2.3倍の高値となっている。

3月25日(金)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷145トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥5,600~5,500、L大 ¥5,600~5,500、L ¥5,400~5,000、
M ¥4,000~3,500。

長 崎 10kgDB2L ¥3,000~2,700、L ¥3,500~3,400、M ¥2,400~2,300。

佐 賀 10kgDB2L ¥3,000~2,700、L ¥3,500~3,400、M ¥2,400~2,300。

【太田市場】 入荷186トン 弱保合

北 海 20kgDB2L ¥ 5,500~5,200、 L大 ¥ 5,500~5,000、 L ¥ 5,000~4,800、
M ¥ 3,800~3,500。

静 岡 10kgDB2L ¥ 2,800~2,600、 L ¥ 3,200~3,000、 M ¥ 2,800~2,600。

長 崎 10kgDB2L ¥ 3,000~2,800、 L ¥ 3,400~3,200、 M ¥ 3,200~3,000。

佐 賀 10kgDB2L ¥ 3,000~2,800、 L ¥ 3,200~3,000、 M ¥ 3,000~2,900。

愛 知 10kgDB2L ¥ 2,800~2,700、 L ¥ 3,000~2,900、 M ¥ 2,800~2,700。

【名古屋北部市場】 入荷58トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥ 6,000~5,500、 L大 ¥ 6,300~5,000、 L ¥ 6,200~4,800、
M ¥ 4,500~3,500。

静 岡 10kgDB2L ¥ 2,600~2,500、 L ¥ 3,000~2,900、 M ¥ 2,800~2,700。

愛 知 10kgDB2L ¥ 2,600~2,500、 L ¥ 3,000~2,900、 M ¥ 2,700~2,600。

【大阪本場】 入荷52トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥ 5,500~5,300、 L大 ¥ 5,500~5,300、 L ¥ 5,000~4,800、
M ¥ 4,200~4,000。

兵 庫 10kgDB2L ¥ 3,200~3,000、 L ¥ 3,600~3,400、 M ¥ 3,200~3,000。

静 岡 10kgDB2L ¥ 2,800~2,700、 L ¥ 3,200~3,100、 M ¥ 3,000~2,800。

長 崎 10kgDB2L ¥ 3,200~3,000、 L ¥ 3,600~3,400、 M ¥ 3,200~3,000。

佐 賀 10kgDB2L ¥ 3,000~ L ¥ 3,600~ M ¥ 3,300~

大 阪 10kgDB2L ¥ 2,800~2,700、 L ¥ 3,200~3,000、 M ¥ 2,900~2,800。

愛 知 10kgDB2L ¥ 3,000~2,800、 L ¥ 3,300~3,200、 M ¥ 3,000~2,900。

【福岡市場】 入荷120トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥ 6,500~6,000、 L大 ¥ 6,500~5,000、 L ¥ 6,000~5,000、
M ¥ 5,000~3,800。

長 崎 10kgDB2L ¥ 3,000~2,500、 L ¥ 3,300~2,500、 M ¥ 3,200~3,000。

佐 賀 10kgDB2L ¥3,000～2,500、 L ¥3,300～2,500、 M ¥3,200～3,000。

供給(産地)の動き

3月に入って、北海道物の出回り量は日々減少し、府県の新物は予想外の出遅れで、需給バランスは大きく崩れ、市場では品不足が深刻化した。4月以降も3月同様の傾向で、北海物は主力JAの貯蔵物以外は殆どなく、府県の早生物も主産地の減反・減収で、玉葱の出回り量は前年に比べ大幅に減少する予想である。輸入物も主力産地の中国・ニュージーランドも、生産減に加えて輸送難で価格に拘わらず大量の導入は難しくなっている。

北海道産地

主力JAの貯蔵物(冷蔵、CA貯蔵)を除き3月末にはほぼ終了する。令和3年度産の異常高値市況を反映して、令和4年産は増反が予想されていたが、ホクレンの2月末の動向調査では、作付は12,527haで前年比84haの減反となっている。若干だが極早生が減反傾向で、中生が増反傾向となっている。現在は今年産の育苗期であるが、いずれの地区も苗立ちは順調だが、例年になく降雪量が多く、圃場の融雪が遅れ、定植作業が後ズレすると、老化苗になると心配されている。

府県産地

早生産地の長崎の南高地区では、既に終盤期を迎え、4月初めにはほぼ終了する。後続は旧来産地の諫早地区になるが、生育はやや遅れ気味だが、当分は高値市況が続くと見て、球肥大を見定めてから、収穫を考えている生産者が多い。

長崎に続く佐賀産地では、中心産地の白石地区の栽培面積は911ha(前年

1026ha)前年比89%と報告されている。出荷の最盛期は4～5月で極早生はほぼ終了し、此の先普通早生に移行するが、降雨少なく球肥大は今ひとつで、雨待ちの生産者が多い。早や出し有利とのムードも、昨今では此の先も当分高値が続くと見て、球肥大を待って収穫する方が収入増となる。とのムードに変わりつつある。従って、纏まった出荷は4月半ばになる。現在、産地相場は20kg裸値¥4,500で今までにない高値である。4月も¥3,000台の高値を期待している。

兵庫の主産地淡路島では、今年の作付面積は1,222ha前年比94%。生育は降雨少なく遅れている。昨年産の冷蔵物の出荷が終了し、極早生の抜き採り出荷が始まっている。過去3か年は豊作型で、反当収量は7トンを上回った。特に前年は7.65トンの最高収量を記録したが、今年は平年作の6トンを予想している。作型は早生種が20%、中生種が65%、晩生種が14%、赤玉が1%となっている。本格的な出荷は4月後半からになる。

輸入動向

2月の輸入は速報値で、21,504トン前年比154%。国際的なコロナ禍に加えロシアのウクライナ侵攻など、諸問題の発生で輸入量は予想量を下回ったものの、前年比では大幅増となった。主力の中国物は19,054トン前年比144%。オランダ物が913トン前年は輸入なし。アメリカ物が838トン前年比210%。タイが404トン前年比130%。ニュージーランドが260トン前年はなし。オランダが471トンで前年は輸入なし。スペインが176トン、前年はなし。となっている。

中国、甘粛省から後続産地の雲南省へ移行が遅れている。中国では、コロナ感染者の急増に伴い、感染者の発生した地域では人の往来抑制のため、ムキ玉工場の生産・出荷に大きな影響が出ている。為に、オファー価格は上昇し、

今後の供給に不安が台頭している。今年の雲南省は減反のほか、低温に阻まれ生育が遅れており、中晩生の収穫は4月後半になる。現在のオファー価格は20kg・C&F、ムキ玉\$17.00、皮付き\$14.00に値上がりしている。

ニュージーランド、今シーズンの作付面積は、前年比96%と報告されている。作柄は、既報の通り、主産地のプケコヘでは高温・早魃に見舞われて球伸びが悪く、稀にみる不作となった。と言われており、球廻りは例年になく小振りである。加えて、船積みのスペース確保が厳しく、更に海上運賃の高騰で、多量の成約は困難の状況である。現在のオファー価格は、65～75mmサイズ・20kg・C&F・¥2,200である。

4月の市況見通し

3月の玉葱市況は、北海物は保合、府県の早生物は弱保合と予想したが、府県の新物は低温と早魃傾向の天候に阻まれ、生育遅れで減収となり、予想外れの値上がり相場となった。4月もいずれの産地も減反・減収傾向で、出回り量は前年を大きく下回る見通しである。何れの産地も市場相場は緩やかな値下がりには留まるとのムードが台頭し、肥大待ちで完熟収穫を予定している。従って、従来の様な集中出荷は影をひそめ、当面は品薄高相場で推移すると予想している。何れにしても高値安定の動きとなり、月後半も10kgL・¥3,000～2,500の高値を維持すると予想している。（笹野敏和記）